



埼玉県議会議員

なかやしき

Vol.3

刷新新総中

しんいち 慎一



なかやしき慎一チャレンジ報告

討議資料



鴻巣市と吉見町に挟まれた荒川とその河川敷、川幅日本一のこの地は、鴻巣市にとっては、春は満開のポピー畑、夏は9万人が訪れる花火大会、秋は満開のコスモス畑と花のまち鴻巣の観光面でのステージにもなり、国体のソフトボール会場にもなったグラウンドやサッカー場、これから9ホールが増設されるパークゴルフ場などのスポーツ施設も整備されており、市民にとっての憩いの場でもあります。その川幅日本一の活用について、質問します。

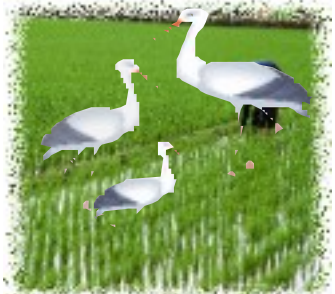
Q 「ウノトリの野生復帰について」
ここ数年の動きの中で、南関東エコロジカル・ネットワークの形成に向けた広域連携モデルの一つとして、

荒川流域エリアで良好な環境の象徴となるコウノトリの野生復帰を目指した取り組みが鴻巣市、桶川市、北本市、川島町、吉見町の3市2町で進められています。今年度から、コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム

にも参加している3市2町ですが、特に地元鴻巣市は、市の名前が大蛇を退治したコウノトリの伝説にも由来し、市民団体「こうのとりを育む会」の皆さんによる賛同者を募る署名活動などを背景に、今後この取り組みを関係市町との連携のもと、さらに積極的に進めようとしています。そこで質問です。荒川流域ワーキングの関係行政機関の委員として、環境部長、農林部長、県土整備部長の3名の参加をいただいている埼玉県ですが、広域的な立場から今まで以上に積極的にかかわってほしいと考えますが、今後のかわり方について伺います。

環境部長 坂本洋典

A コウノトリの野生復帰を進めるためには、この地域の広大な河川敷を含めた、広域的な田園地帯の環境改善に向けた持続的な取組が必要であり、地元の理解と熱意がなによりも重要でございます。県といたしましては、今後は、国や鴻巣市をはじめとする関係自治体と、さらに情報交換を進めるとともに、野生生物や生物多様性に対する理解の促進を図るなど、コウノトリの野生復帰に必要な環境づくりに向けて連携して取り組んでまいります。



なかやしきの思い!

我が国では、観測史上最も暑かった去年の夏。ゲリラ豪雨や年を超えての大雪などの被害が出ている。また、豪州では、大水害も発生している。まるで、地球が怒っているようである。そんな中で、川幅日本一のこの地で、街の名前にも由来するコウノトリが野生復帰できる環境を何としても作っていきたい!

ラジコン飛行機のメッカづくりについて



川幅日本一の上流4キロほどの所に、旧吹上町時代から継続されているラジコン飛行場があります。毎年春には、吹上ラジコンクラブ主催の大会も開催され、私も毎年拝見していますが、大空をラジコン飛行機が飛ぶ姿は実に爽快です。

全国には2万人ともいわれるラジコン飛行機愛好者がいて、今その人たちの中で、飛行場が使えないクラブが目立ってきています。本県でも、県の南部の地域などでは飛行禁止の傾向がみられるそうですが、群馬県の太田市(旧尾島町)では、11月3日に市を挙げての航空ページエントが開かれ、3万人の来訪者が訪れたそうです。観光の素材としても期待の持てるラジコン飛行機。本県でもこの飛行場をラジコン飛行機のメッカとして育て全国の愛好者にPRしてはどうか。



平成22年4月25日
関東RCクラブ対抗競技大会
(荒川総合公園ラジコン飛行場)

産業労働部長答弁要旨



川幅日本一の鴻巣市で、広い荒川河川敷をラジコン飛行機のメッカとして育てていくことは、観光振興の上でも大変有効な手段だと考えます。そのためには、今後、地元市や観光協会、商工会などが協力し、地域の貴重な資源として盛り上げる気運の醸成が是非とも必要です。県も今後ラジコン飛行場が魅力ある観光資源となるよう観光客を呼び込むための仕掛けづくりや情報発信の在り方について検討してまいります。

なかやしきの思い!

大空に機影をきらめかせ、操縦技術の妙を競いあうラジコン飛行機。一日眺めていても飽きない。大会のほかにもエキシビジョンでも活躍いただいている。この活躍をさらに広げ、埼玉のラジコン飛行機のメッカとして育て、鴻巣の観光素材の一つと出来るようになるようにがんばっていききたい。

進捗状況

しんちよく

鴻巣川島線

(箕田)稲荷町(鴻巣)立体

この四年間で大きく進捗した鴻巣川島線の道路拡幅工事。JR踏切西側については工事は完成した。完成部分のほぼ中間に位置する、箕田小学校通学路交差部分にも県警、鴻巣市



のご理解により、手押し信号設置の要望が実現できた。今後、より以上に安全に登下校できるようになるだろう。また、踏切東側についても工事は順調に進捗しており、残った10%の用地買収についても今後順次進める予定である。そんな中で、なかなか工事に着手できなかった踏切の拡幅。いずれば高崎線のアンダーを通過予定だが、まずは平面拡幅を進める。この工事、実は、来年度に着工がずれ込む危機を迎えてしまう恐れもあったが、地元選出の大島代議士にも相談し、県、市の意向をJRに改めてご理解いただけた結果、今年度着手の協定締結の見通しとなった。ありがとうございました。



踏切西側から東側(17号)を臨む

なかやしき慎一 プロフィール

- ・昭和34年 8月 1日 鴻巣市生まれ
- ・鴻巣市立東小学校・鴻巣中学校卒
- ・城西大学附属川越高等学校卒
- ・東京経済大学経営学部卒
- ・1999年度(社)鴻巣青年会議所 理事長
- ・平成14・15年度鴻巣東小学校PTA会長
- ・平成17年度鴻巣中学校 PTA会長
- ・平成17・18年度鴻巣PTA連合会 会長
- ・雷電町町内会 副会長
- ・鴻巣市水泳連盟 会長
- ・鴻巣市体育協会 副会長
- ・鴻巣市硬式テニス協会 副会長

